

平成 26 年度 4 月 1 日訓示

平成 26 年 4 月 1 日

礼文町長 小 野 徹

**「困難の中に
明日への活力が！」**

みなさん、おはようございます。いよいよ平成 26 年度の始まりであります。

まず、先ほど人事異動の辞令交付をいたしました。動いた人、動かなかった人とさまざまですが、動いたから意味があり、動かなかった人は意味がないということではありません。異動には、それぞれに意味があることを認識していただき、早く仕事に慣れて頑張ってくださいようお願い致します。

さて、新採用の皆さん、おめでとう。皆さんは大きな夢と希望を持って公務員の道を選ばれたわけであります。いろいろな不安な気持ちを抱えながら、また、期待に胸を膨らませていることと思いますが、私が、皆さんに期待することはたくさんあります。知っていただきたいこと、それゆえに期待することの一端を最初に申し上げたいと思います。

「公務員というのは一生を懸けるに足る職業であり、自分の人生を託するに値する仕事である」と私は思っています。

先ほど代表の方が宣誓をされました。まさしく、その通りであります。特定の方の利益であったり、自分自身の利益を

優先したりすることがないように、より高い、強い倫理性が求められ、仕事をしていくうえでの公平性や、常に正しいことを行っていくということが公務員の置かれている立場でございます。だから、皆さんの身分は法律できちんと保障されるのであります。公務員という特殊性というものを、勤務を始める日によくよく心得てほしいと思います。

皆さんは、今よく云われるところの「派遣」ではない、会社で言えば「正社員」、役場では所謂「役場の正職員」であります。

いかにキャリアアップして「町民みなさんの幸せのために頑張れる役場職員」となれるかが皆さんの務めであり、さきほど、皆さんの身分は保障されていると云いましたが、身分が保証されているから何もせず、安穩と過ごせばいいということではありません。

身分が守られていることで勘違いしてしまう。権利だけで、公務員としての大事な義務を果たさない職員であってはいけないと思います。

繰り返して申し上げます「公務員というのは一生を懸けるに足る職業であり、自分の人生を託するに値する仕事である」この言葉を今日じっくり考えてほしいのでございます。

詳しいことは、これからの仕事を通して一つひとつ覚えていくこととなりますので、これ以上は申し上げませんが、いつもアンテナを高く張り、一番北の島であるけれどもいろいろな情報を取り入れ、それを自分の仕事や職場、そして自分自身の人生にいかしていただきたいと願っています。

ふたつ目は、あいさつのお話をします。最近では町民のみなさんから役場職員のあいさつが良くなったと聞き、うれしく思います。でも、仕事が忙しいから・・・とでも言いたいのでしょうか？まだ、机から顔を上げないでいる人もいます。あいさつは「あなたは大切な人です」と伝える最良の方法なのであります。役場に来られた方に、自分から、気持ちのよい挨拶を欠かさないこと。窓口に来られた方に必ず声をかけること。そして、お客様に気持ちよく接することや電話での親切な対応に心がけていただきたいのです。

これは役場だけではありません。普段も道端で、町民の方
に会ったらあいさつを欠かさないことです。笑顔で、あいさ
つをしていただきたい。

同じように、役場に出勤したら職員同士が互いに声をかけ
あうことです。後輩の皆さんは、特に、職場の先輩に自分か
ら挨拶をするようにしましょう。

新しく仲間になられた皆さんに心からお祝いを申し上げ
ますとともに、若さあふれるフレッシュな感覚を発揮し、わ
が町の活力を出していただくこと、自分自身を鍛えていただ
くことを期待しているところでございます。

さて、今年の正月の「仕事始め」に、私は「私達の仕事は
町民みなさんの幸せのためにある」という基本原則とともに、
職員の皆さんは“町づくりのリーダー”であると云う自覚を
持ってほしい」と云うお話をいたしました。

今、新採用職員のみなさんにもそのことを少しだけお話を
しましたが、特に今日は、課長職あるいは主幹職にある皆さん
に申し上げます。

皆さんは、すでに50代になっております。定年に近づいている方もおられるでしょう。

でも「あと〇〇年で定年だから・・・新しいことは何も考えないし。これ以上苦勞したくないから何もしない」などと思っている方がいるとしたら、それはとんでもないことです。

「役場の仕事は町民みなさんの幸せのためにある」のであって、職員のためにあるではありません。このことをしっかり肝に銘じて、若い皆さんも含めて、職員の皆さんは、最後まで、町民みなさんの幸せのために頑張ることを忘れないでいただきたい。

以前にもお話をしたと思いますが、私は、いつも、人々との繋がり大切さを肝に銘じながら仕事をさせていただいてまいりました。いろいろな人と出会い、たくさんの繋がりの中で、町の進んでいく道が開けたことが数多くありました。また、礼文町がたくさんの皆さんとのつながりの中で、大きなご縁をいただいて取組めたことも沢山ありました。

私は、そこに大きな信頼をいただいたからだと思います。

みなさんも、職場での人のつながり、特に課長や主幹となれば、職場の長になるわけでありますから、当然、職場における所謂「ほうれんそう(報告・連絡・相談)」では、相談されることが多い立場であります。

そんなとき、もちろん「あと〇年で定年だから・・・新しいことは何も考えないし、これ以上苦労したくないから何もしない」などと思うことなど論外であります。ささやかでもいい、直面した問題を解決できるのは「自分しかいない!」という自負心を持って相談にのり、問題の解決にあたっていただきたい。

部下がやろうと考えている新しいことにチャレンジしてほしいのです。課の中でともに助け合い、支えあうことで困難な仕事に立ち向かおうという機運が生まれるのです。「困難の中にこそ明日への活力があるんだ」と考え、前例がないからとか、初めから無理だとか、できない理由をあれこれ探すのではなく、どうしたら実現できるかにエネルギーを注いでいただきたいと思います。

一つずつ解決することで、コミュニケーションが深まり、信頼が生まれます。一生懸命頑張っていると誰かが救いの手をさしのべてくれるのです。これを、みなさんの「財産」としていただくため、より多くの人たちとの豊かなつながりを作り上げていただきたいと思います。

さて、今年度、本町の当初予算に補正予算を加えますと実質で総額59億8千830万円という積極型の大型予算であり、皆さんが一生懸命作った予算に町民の皆さんが大きな期待をしているということでもあります。

議会でも申し上げましたように、明るい未来を切り開くため「未来に元気のタネをまく」と申し上げ、小さいけれども「定住対策」に新たな一歩踏み出しました。

離島における生活・経済・産業を維持するために行うインフラ整備事業や医療介護福祉サービス、教育環境、居住環境などの所謂「守りの取組」とは別に、もうひとつの若い漁業者を増やして人口を増やす「攻めの取組み」に新たな一歩を踏み出したのであります。

私は礼文島に住む^{みんな}皆の笑顔が輝く元気な町を創りたい！

しかしながら、皆の笑顔が輝くには産業の振興や人口を増やすことだけではありません。教育の取組み、医療、介護、福祉、それに保育所、子育てや保健指導、健康づくりの分野、環境や自然を守る取組み、防災、水道、下水道、ごみ処理やし尿処理、建設課や総務課の仕事にもあるんです。もちろん「観光振興」もまだまだ大きな分野が残されています。

当たり前のことですが、タネはまかなければ、芽は出ません。そして、そのタネをまくのは職員の皆さんであります。

自分が担当している仕事の中に、「礼文らしさ…」とか「礼文ならでは…」と云った所謂「攻めの取組」ができないかを見つけだし、もっともっとふるさとを元気にするため色々な取組みを考えていただきたいのです。

すべての責任は私がとります！ 問題を解決しようとする前向きな取組み、そうした職員一人ひとりのひたむきな姿勢。そのひとつひとつが積み重なっていくその先に、私は必ず礼文町の未来が明るく開けていくと信じております。

結びになります。すべての職員が「笑顔で人のために進んで頑張れる職員」になっていただくこと。

そして、いつも云うところの「スピード感にあふれた清く正しく美しい職員」であることを心からお願いを申し上げます。訓示といたします。

平成 26 年度も、頑張りましょう！ よろしく、お願いいたします。